

2024

THE ASAHI SHIMBUN

SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

# 朝日の社会福祉

## 令和6年度事業報告

2024年4月1日—2025年3月31日

**ついでにお知らせ**  
これまで以上に増えてきた自分の思いを  
子どもの立場の仲間と語り合いませんか？

2025年3月16日(日)  
13:30~15:45  
30名程度(先着順) 一人500円

2025年3月16日(日) 13:30~15:45  
30名程度(先着順) 一人500円

**「子ども・養育者・仕組み」  
それぞれの間の  
ズレを防ぎたい!!**

2024年9月20日(金) 13時30分~14時 無料

天使育児園ホール

**ぴあ  
応援**

2025年  
2月22日(日)・2月23日(月) 無料 18時~20時

**仲間と  
つながる**

2025年3月15日(土) 14時~16時

**まなび応援フォーラム**  
~未来を切り拓く大人の新機軸~

2025年1月19日(日) 10時~12時

**地域共生社会づくりに  
認知症マブを活かす**

2025年2月20日(木) 13:30~16:30

**子どもの心のケアを  
一緒に考える**

2025年1月18日(土) 13:00~16:00

**「障がいってなに？」**

2024年8月24日(土) 13時~15時

**若草プロジェクトの  
活動と孤立・孤独**

2024年10月26日(土) 14:00~16:00

**にも包んで  
みませんか?**

2024年10月13日(日) 13:00~15:00



社会福祉法人

朝日新聞厚生文化事業団

## はじめに

世界中で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の脅威が和らぎ、ほっとしたのもつかの間、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区侵攻など国際紛争の長期化など暗い話題が続いています。また、本年1月に就任したアメリカのトランプ大統領による「相互関税」発表により景気の先行きが不透明な状況です。そして、国内では、断続的な物価高により家計支出がさらに増加しており、人々の将来への生活不安が高まっています。

こうしたなかで朝日新聞厚生文化事業団は、2024年度も助成事業をはじめとした多くの社会福祉事業を実施することができました。ご協力をいただいた支援団体や関係機関のみなさまに、心より御礼申し上げます。

私たちがこれまで力を入れてまいりました社会的養護出身の学生を応援する「進学応援金」事業では、進学応援金を贈る大学生ら「応援生」たちと事業団がタッグを組んで、社会的養護にある中学生や高校生にアドバイスやエールをおくる活動「応援生自らが進学体験や思いなどを直接伝える出前型セミナーの実施」「ぴあ応援ふえすの実施」「情報誌ぴあ応援ブックの発行」「YouTubeぴあ応援ラジオの配信」「奨学金検索サイトMiomusの運営」「巣立ちのための応援サイト・すだちずの運営」などを行いました。引き続き、高校就学などを支える「まなび応援金」事業も実施しました。

また、能登半島地震の災害救援事業として、「能登こども家庭応援団の派遣」「石川県立輪島漆芸技術研修所への助成」「子どもの心のケアを一緒に考える講演会・ワークショップの実施」「災害時大学ボランティアセンター支援」などを行いました。

このほか、発達障がいのある人がのびのびと自身の能力を発揮しながら生活していけるよう、当事者に寄り添う支援や居心地のよい環境整備に尽力している団体に助成する「発達障がい地域生活応援」事業や認知症関連事業、東日本大震災の復興を支える事業なども手がけることができました。私たちのさまざまな活動全般を、この事業報告書を通じて知っていただければ幸いです。

お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会を実現したい——。私たち朝日新聞厚生文化事業団はこれからもこのミッションを掲げ、福祉の向上につながる「地域づくり」「人づくり」「支援の輪の拡大」の三つの視点に沿って、積極的に活動してまいります。

今後とも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2025年6月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

# 目次

はじめに .....	1
<b>社会福祉事業</b>	
<b>■ 児童福祉事業</b>	
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 .....	4
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動（こども応援シェアセミナー、進学情報 シェアセミナー） .....	5
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動（ぴあ応援ふえす、ぴあ応援ブック、 ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず） .....	6
全国奨学金団体交流会 .....	9
自立援助ホーム・子どもシェルター まなび応援金 .....	10
まなび応援フォーラム .....	11
連載インタビュー「保育の質」を考える .....	12
<b>■ 障害者福祉事業</b>	
「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成 .....	13
フォーラム「『障がい』ってなに？」 .....	14
ワークショップ「にも包括ってみんな知っとる？」 .....	15
ぴあラボフォーラム「仲間とつながる」 .....	16
精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」 .....	17
第41回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト .....	18
第44回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会／ 第33回九州車いすツインバスケットボール選手権大会 .....	19
セミナー「障がい児・医療的ケア児の親と就労」 .....	20
障がいのある人の就労支援事業 パン販売・「地域つながりマルシェ」 .....	21
第43回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展 .....	22
<b>■ 高齢者福祉事業</b>	
地域共生社会づくりに認知症マフを活かすセミナー .....	23
認知症マフワークショップ .....	24
認知症フレンドリーキッズ授業 .....	25
高齢者施設訪問事業 ゆうゆうビジット .....	26
朝日高齢者福祉セミナー2024 .....	27

## ■被災地支援

石川県立輪島漆芸技術研修所に助成／「日本在宅ケア・サミット」に助成／能登豪雨救援金／台湾東部沖地震救援金	28
能登こども家庭応援団	29
「子どもの心のケアを一緒に考える」講演会・ワークショップ／おしゃべりの会	30
災害時大学ボランティアセンター支援	31
朝日のあたる家／東日本大震災へのご寄付	32

## 公益事業

### ■福祉啓発・公衆衛生事業

すくすくの森相談室	33
自殺予防公開講座「若草プロジェクトの活動と孤立・孤独」	34
西部朝日福祉助成金	35
第76回保健文化賞	36

### ■チャリティー事業

朝日チャリティー美術展	37
朝日チャリティー色紙展・輪島応援工芸展	38
第74回チャリティーコンサート「メサイア」	39
親子で楽しむクリスマスコンサート	40

朝日福祉ガイド 本・DVD	41
---------------	----

主な後援・協賛・協力事業一覧	42
----------------	----

収支／寄付報告	46
---------	----

中期計画 2025	47
-----------	----

名簿（理事・監事・評議員／職員）	52
------------------	----

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2008 年度
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学金 10 万円と卒業まで毎年 30 万円の返済不要の奨学金を贈る事業です。また、応援生とともに社会的養護の未来に貢献するための「ぴあ活動」を実施しています。
時期	5 月：募集開始 10 月：内定
助成の目的	社会的養護で育った人の自立支援。
助成団体	
助成した人数	57 人（在校生 40 人、24 年 4 月入学 17 人）
助成総額	応援金給付 1835 万円
その他	<p>本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡子ども応援資金などによって行っています。</p> <p>ご寄付の内訳：READYFOR クラウドファンディングでのご寄付 426 万 6000 円（のべ 182 人）、直接寄付 1549 万 6083 円（のべ 201 人）</p> <p>【ぴあミーティング】</p> <p>応援生同士が交流を通し、「ぴあ活動」を推進させるきっかけをつくる集いを、25 年 3 月 26 日（水）に朝日新聞東京本社読者ホール（東京都中央区）で開催。応援生 41 人が参加し、25 年 4 月 1 日に発足する「ぴあ応援団」の理念や具体的活動などについて話し合いました。</p> <p>※ぴあ応援団：</p> <p>進学応援金を受けている学生が 2021 年に開始した、後輩たちや社会的養護の未来をより良くするための様々な「ぴあ活動」を発展、拡大させるために OBOG や学生たちが立ち上げた任意団体。学生に限らず、一緒に活動したいと希望する社会的養護で育った全国の若者とともにプロジェクトを実施していきます。</p> <p>※進学応援金は、2024 年度をもって新規の奨学生募集を終了することとなりました。すでに採用されている学生については、卒業まで支援を継続します。</p>

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動 こども応援シェアセミナー（北九州市） 進学情報シェアセミナー（名古屋市）
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	こども応援シェアセミナー：進学情報シェアチーム 進学情報シェアセミナー：愛知県
後援等	こども応援シェアセミナー：カリタスの園天使育児園、朝日新聞厚生文化事業団（以上協力） 進学情報シェアセミナー：応援生進学情報シェアチーム、朝日新聞厚生文化事業団（以上協力）
事業開始年度	2022年度
事業の概要	応援生が、自身の体験談や今の思いなどを養育者や中高生に発信する、出前型のセミナーです。
日時	こども応援シェアセミナー：9月20日（金） 進学情報シェアセミナー：9月29日（日）
場所	こども応援シェアセミナー：カリタスの園天使育児園（北九州市） 進学情報シェアセミナー：ウインクあいち（名古屋市）
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の自立支援。
事業の内容	10人の応援生による「シェアチーム」が企画運営するセミナーです。体験談を話したり、子どもと養育者、それぞれの思いや気持ちを知るためのワークショップを実施したりしました。 専門家もお招きし、運営にご協力いただきました。 こども応援シェアセミナー：霜大輝さん（児童養護施設一陽副施設長）、畑山麗衣さん（Giving Tree ピアカウンセラー） 進学情報シェアセミナー：蛭沢光さん（NPO 法人ひだまりの丘理事長）、久米忠史さん（奨学金アドバイザー）
参加者数	こども応援シェアセミナー：対面参加 30 人（別途オンライン配信実施） 進学情報シェアセミナー：33 人

子どもの福祉	<p style="text-align: center;"><b>児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動</b>  <b>ぴあ応援ふえす、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず</b></p>
障がいのある人の福祉	<p>事業種別 社会福祉事業（児童福祉事業）</p>
高齢者の福祉	<p>主催          ぴあ応援ふえす：ぴあ応援ふえす実行チーム、朝日新聞厚生文化事業団          ぴあ応援ブック：ぴあ応援ブック制作チーム          ぴあ応援ラジオ：ぴあ応援ラジオ制作チーム          Miomus：Miomus ネットワーク          すだちず：すだちず制作委員会、朝日新聞厚生文化事業団</p>
被災地支援	<p>後援等          ぴあ応援ふえす：カリタスの園天使育児園（協力）          Miomus：全国児童養護施設協議会、公益財団法人全国里親会、日本ファミリーホーム協議会、全国自立援助ホーム協議会、全国母子生活支援施設協議会、全国児童心理治療施設協議会、全国児童自立支援施設協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議（以上後援）</p>
福祉啓発・公衆衛生	<p>事業開始年度          ぴあ応援ふえす・ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ＝2022年度          Miomus・すだちず＝2023年度</p>
チャリティ事業	<p>事業の概要          児童養護施設・里親家庭等進学応援金（給付型奨学金）を受けている学生による、同じ境遇にある後輩たちの将来の不安を軽減し、また、これからの社会的養護をより良くするための活動です。動画配信などさまざまな媒体を活用して、社会的養護のもとを離れた後の進路や生活情報、当事者としての思いを発信しています。</p> <p>日時          ぴあ応援ふえす：25年2月23（土）、24（日）          ぴあ応援ブック：8月、12月、25年2月発行          ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず：随時更新</p> <p>場所          オンライン、冊子の配布等</p> <p>事業の目的          社会的養護で暮らす中高生の自立支援。</p> <p>事業の内容  <b>【ぴあ応援ふえす】</b>          中高生や全国の養育関係者を対象にしたオンラインフェス。今年度は北九州市のカリタスの園天使育児園を配信会場に、YouTube ライブで実施しました。          プログラム：          ・施設経験者による応援トーク            宗次徳二さん（カレーハウス CoCo 壱番屋創業者）            田中れいかさん（モデル、社会活動家）            生田目竜也さん（大相撲力士）          ・伝えてみよう、自分の気持ち          ・キャンパス大冒険！大学生活クイズラリー          ・これからの役立つ情報と、楽しい時間を          ・おしゃべりの部屋／お悩み相談の部屋          ・役立つ動画集</p>

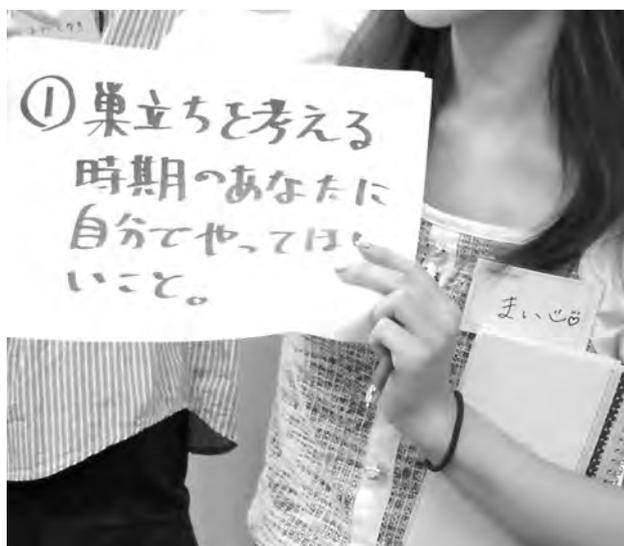
	<p>応援参加：  塩尻真由美さん（とちぎユースアフターケア事業協同組合職員）  畑山麗衣さん（Giving Tree ピアカウンセラー）  荒川美沙貴さん（社会的養護経験者向け情報ウェブサイト Iris 編集長）</p> <p><b>【ぴあ応援ブック】</b>  「奨学金で知っておきたいこと」「実際の学生生活」「一人立ちする前に知っておこう」などをテーマに、自立が視野に入ってきた中高生向け冊子を制作しています。24年度は3回（8月、12月、25年2月）発行しました。  全国の児童養護施設、里親会、児童相談所など約900か所に送付しています。また、関わっている子どもたちに渡したいなど追加の希望を受けて、里親会、フォスタリング機関、ファミリーホーム協議会等に1565部を追加送付しました。</p> <p><b>【ぴあ応援ラジオ】</b>  中高生に向けたYouTubeの音声・動画配信です。「同じ境遇の後輩に自分たちの経験を役立てたい」と、24年度はショート動画を含め、13本のコンテンツを公開しました。  児童養護施設で育った経験のある3人で情報を発信している「THREE FLAGS」へのインタビューを行ったり、長く児童養護施設長を務め、社会的養護における自立支援や地域支援の標準化に向けて、施設運営をはじめ啓発活動などを続けている社会福祉法人子供の家本部・理事の早川悟司さんと「社会的養護の今と未来」を語り合ったほか、「受験」をテーマにした動画も制作しました。</p> <p><b>【Miomus】</b>  社会的養護の奨学金を運営している全国の団体に呼びかけ、ともに情報を発信していくMiomusネットワークが運営する「奨学金検索サイト」です。体験談などをもとにした応援生のコラム記事なども随時配信しています。</p> <p><b>【すだちず】</b>  施設や里親家庭からの巣立ちに向けて中高生の気になることなどに、多数の応援生、社会的養護を経験した若者、専門家などが経験談やアドバイスで応じる、メッセージ集形式のサイトです。  サイトにアクセスするための大学ノート風冊子「とびだシート」も制作し、全国の児童養護施設、里親会などに頒布しています。</p>
<p><b>参加者数</b></p>	<p>ぴあ応援ふえす：参加申し込み169人</p>



ぴあ応援ふえすで話した  
カレーハウス CoCo 壱番屋創業者の宗次徳二さん。



こども応援シェアセミナーの様子。



里親らが参加した進学応援セミナー。ワークショップも行った。

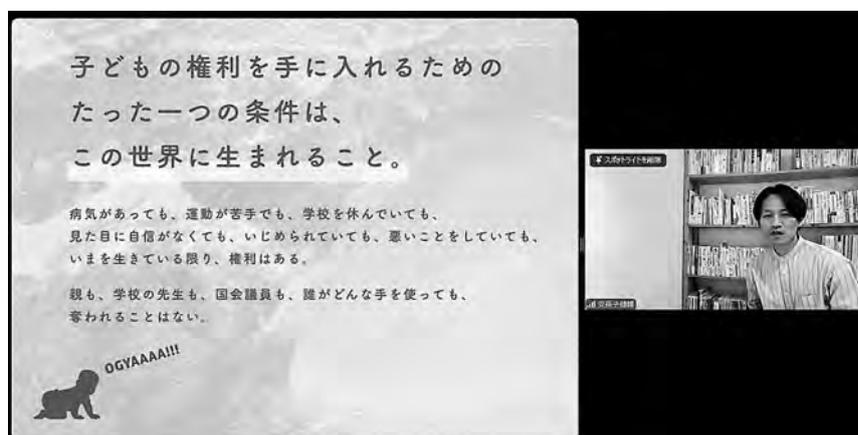


ぴあミーティング。新入生も活発に発言した。

事業の名称	全国奨学金団体交流会
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	Miomus チーム
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（協力）
事業開始年度	2024 年度
事業の概要	社会的養護の奨学金を運営する団体が集い、学生やこどものためのより良い奨学金制度や支援を一緒に考えるための交流会です。当事業団を含め 13 団体が参加しました。
日時	11 月 9 日（土）
場所	朝日新聞東京本社
事業の目的	より良い奨学金制度や支援をともに考える。
事業の内容	<p>社会的養護の奨学金サイト Miomus を運営する応援生が企画し、初めて開いた交流会です。各団体の奨学金紹介やパネルディスカッション、テーマ別発表、グループワークなどを行いました。</p> <p>◆参加団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 法人 モバイル・コミュニケーション・ファン</li> <li>・ 公益財団法人資生堂子ども財団</li> <li>・ 公益財団法人パブリックリソース財団</li> <li>・ NPO 法人タイガーマスク基金</li> <li>・ 一般財団法人ゼンショーかがやき子ども財団</li> <li>・ 公益財団法人しまなみ奨学財団</li> <li>・ 社会福祉法人東京都社会福祉協議会</li> <li>・ 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル</li> <li>・ 公益財団法人教育支援グローバル基金</li> <li>・ 日本オラクル株式会社</li> <li>・ 社会福祉法人 中央共同募金会</li> <li>・ あすのば</li> <li>・ 朝日新聞厚生文化事業団</li> </ul>
参加者数	22 人

事業の名称	自立援助ホーム・子どもシェルター まなび応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人カリヨン子どもセンター（協力）、公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2020年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで現在暮らしている、またはかつて利用していた15歳～29歳を対象に、高校就学や資格取得にかかる費用を支援します。2024年度前後期受け付け分として、のべ702人に総額7125万5741円を贈りました（一部手続き中含む）。
時期	前期：2024年4月～9月 後期：10月～25年3月
助成の目的	社会的養護で暮らす子ども、若者の就学・資格取得・自立支援。
助成団体	
助成した人数	就学金：のべ664人 資格取得金：のべ38人への給付が内定
助成総額	就学金：計6631万5000円、資格取得金：計494万741円（一部手続き中含む）
その他	<p>【就学金】</p> <p>高校（全日制・定時制・通信制）などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。6ヶ月間の就学に対して12万円を給付（返済不要）。</p> <p>【資格取得金】</p> <p>自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付（上限15万円）。</p> <p>24年度の対象は、高校卒業程度認定試験、危険物取扱者、宅地建物取引士など</p>

事業の名称	まなび応援フォーラム～未来を切り拓くたくさんの経験を～
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	社会福祉法人カリヨン子どもセンター、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	全国自立援助ホーム協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、特定非営利活動法人えんじゅ（以上後援）
事業開始年度	2023 年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らすこども、若者、支援者を対象に、講演や経験談で学ぶことの意義を伝えるフォーラム。当事者同士が話し合える時間も設けました。
日時	25 年 1 月 19 日（日）
場所	オンライン
事業の目的	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らすこどもや若者が、たくさんの選択肢の中から将来の夢や希望を自由に語り、それに向かって様々なことを経験し、挑戦することができる社会を、当事者、支援者とともにつくる。
事業の内容	対象：自立援助ホーム、子どもシェルターで暮らしている、または暮らしたことのあるこども・若者。自立援助ホーム、子どもシェルター職員、関係者。 参加費：無料 プログラム： ・基調講演「子どもの権利は誰のもの？」 安孫子健輔さん（NPO 法人そだちの樹事務局長、NPO 法人えんじゅ理事） ・当事者が語る体験談「私のまなびとあゆみ」 まなび応援金利用経験者 4 人、自立援助ホーム職員 3 人 進行：高橋亜美さん（ゆずりは所長、NPO 法人えんじゅ代表理事） ・「おしゃべりの時間」（グループディスカッション） 進行：石井花梨さん（社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局長） 高橋亜美さん
参加者数	65 人



安孫子健輔さんの講演の様子

事業の名称	連載インタビュー「保育の質」を考える ～子どもにとって、より良い保育のために～
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2023 年度
事業の概要	これまでの保育のあり方を再考し、保育の質を確保していくことが社会的に重要な課題となっています。この連載インタビューでは、「保育の質」をメインテーマに、保育の現状について明らかにし、どのように現状を変えていくべきか、また変えるために必要なことは何かについて、保育に関わる様々な人にお話を伺っています。インタビュー記事は、当事業団ホームページに掲載しています。
日時	
場所	
事業の目的	保育の現状について、保育に携わる方や一般の方に知ってもらい、子どもにとってより良い保育を考えていくため。
事業の内容	2024 年度は、以下の方々のインタビューを掲載しました（肩書は取材当時）。 【第 4 回】「保育士の専門性」 小崎恭弘さん（大阪教育大学健康安全教育系教育学部教員養成課程家政教育部門教授、元・大阪教育大学附属天王寺小学校長） 【第 5 回】「保育士の働きやすさ」 野上美希さん（社会福祉法人風の森統括、学校法人野上学園主事、株式会社野上アカデミー代表取締役、一般社団法人キッズコンサルタント協会代表理事） 【第 6 回】「保育士のキャリア形成」 中田純子さん（社会福祉法人心華会ひいらぎこども園理事長・園長、日本保育学会会員、一般社団法人京都府保育協会副会長） 【第 7 回】「保育の質を考える：保育の担い手確保の視点から」 北野久美さん（認定こども園「あけぼの愛育保育園」園長、全国保育士会副会長）
参加者数	

事業の名称	「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	発達障がいのある当事者が苦手なことに寄り添う支援や、得意分野を伸ばす活動、学校や職場・家庭以外の場所、余暇を充実させるための活動などを応援し、助成金を贈呈します。
時期	募集：9月2日（月）～10月21日（月） 選考期間：10月22日（火）～12月中旬 助成決定通知：25年1月中旬 助成金贈呈式：2月5日（水） 助成期間：4月～
助成の目的	発達障がいのある当事者のための活動を応援することで、障がいの有無にかかわらず、誰もが活躍できる社会を目指す。
助成団体	2025 年度から助成を受ける団体 【3年継続助成】（4 団体） ・特定非営利活動法人芸術家と子どもたち（東京都、特別支援学級等での発達障がい児による創造的体験とインクルーシブ教育実践） ・特定非営利活動法人ネスト・ジャパン（東京都、発達障がいの人たちの興味に特化した余暇活動支援普及のための出張余暇事業） ・特定非営利活動法人ディスレクシア協会名古屋（愛知県、読み書き障がい〈発達性ディスレクシア〉の子どもと共に未来を創る） ・NPO 法人 DDAC（大阪府、安心して参加できる当事者グループを支える環境づくり事業） 【単年助成】（7 団体） ・成人発達障害支援学会（東京都、デイケアと自助グループが共に学ぶ全国フォーラム） ・医療法人社団草童会（東京都、町田市南地区の児童発達障がい支援連携体制構築に向けた研修事業） ・特定非営利活動法人東京都自閉症協会（東京都、成人期以降の自閉スペクトラム症の人とその家族の余暇支援事業） ・合同会社 Ledesone（大阪府、大人の LD と向き合い過ごしやすい社会を共創する「おとな LD ラボ」事業） ・一般社団法人 ABA SPEAKS（兵庫県、はったつ FES2026：Talk & Walk ABafes） ・NPO 法人親の育ちサポートかがわ（香川県、子ども発達応援プロジェクト） ・熊本県自閉スペクトラム症協会（熊本県、自閉症児者が地域で暮らすための、民生委員・主任児童委員への理解啓発活動）
助成した人数	
助成総額	959 万 410 円
その他	2024 年 9 月 26 日（木）に、オンラインで 2024 年度に助成を受けて活動を行った団体による近況報告会を行い、10 団体が参加しました。

事業の名称	フォーラム 『『障がい』ってなに？もっと身近に、聞いて、感じて、知ってみよう！』 ～気づいていますか？私が見ている社会≠あなたが見ている社会～
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022年度
事業の概要	オンライン形式で実施した2部構成のセミナー。第1部では、東京大学大学院教育学研究科バリアフリー教育開発研究センター教授の星加良司さんによる基調講演、第2部では、今まで10回にわたり当事業団のホームページに掲載してきた連載インタビュー『『障がい』ってなに？』にゲストとして登場した4人の障がいのある当事者、支援者によるトークセッションを行いました。
日時	8月24日（土）
場所	オンライン
事業の目的	障がいの有無をはじめ、置かれた環境の違いにかかわらず、さまざまな人がともに過ごせる社会にするためには、どのようにすれば良いのかを考えるきっかけにしてもらうこと。
事業の内容	<p>【第1部】 基調講演『『障がい』ってなに？多数派が作り出す社会のバリア』（星加良司さん） 障がいのある人が経験する困難は、周りの環境や制度、ルールなどが、障がいのない人の都合に合わせて作られていることによって生じている、という「障がいの社会モデル」について紹介。これをわかりやすく実感してもらうために「車いすユーザーが多数派を占める社会」の寓話を披露したうえで、社会のあり方を考える際、多数派の人だけで意思決定をすると少数派の人への弊害は考慮されず、結果的にその不便さを少数派の人が背負わなければいけなくなっている、ということを分かりやすく伝えました。</p> <p>【第2部】 トークセッション「学ぶこと、働くことに際しての障がい、社会の障壁（バリア）とは」 日本視覚障害者団体連合理事・同青年協議会相談役で盲学校教諭の片平考美さん（視覚障がい）を進行役に、西澤陽一郎さん（リコージャパン株式会社、車いすユーザー）、藤川心花さん（聾学校高等部在学、聴覚障がい）、増田由美子さん（社会福祉法人中央区社会福祉協議会職員）の4人が登壇。 障がいのある人自身が自分の障がいについて理解し、ほかの人に説明できることは非常に大切と、4人が共通して挙げ、障がいの特性や、得意なこと、苦手なことなど、より詳細に周囲の人たちに説明できることが適正な合理的配慮につながるのでは、と話しました。</p>
参加者数	約100人

事業の名称	ワークショップ「にも包括ってみんな知っとる？ ～岡山の『にも包括』の未来を考えよう！～」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	ワークショップ「岡山の『にも包括』の未来を考えよう！」実行委員会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	岡山県、岡山市、岡山県精神保健福祉士協会、岡山県精神障がい者団体連合会、岡山県精神障害者家族会連合会、日本精神科看護協会岡山県支部、おかやま精神医療アドボケイトセンター（以上後援）
事業開始年度	2020年度
事業の概要	誰もが望んだ場所で心豊かに暮らせる地域のあり方を、精神障がいがある人やその家族、支援にあたる人の視点から考えるワークショップ。24年度は、岡山市で、精神疾患の親をもつ子どもの会こどもびあ岡山ぴーちと協力し、現地で活動する方々と実行委員会を立ち上げ、開催しました。
日時	10月13日（日）
場所	ハッシュタグ岡山（岡山市北区）
事業の目的	精神障がいのあるご本人、その家族、医療福祉、行政関係者がともに語りあう場を創出し、地域で暮らす人の声から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行うこと。
事業の内容	対象： 障害のあるご本人、ご家族、医療福祉関係者、行政関係者、そのほか地域づくり、メンタルヘルスに関心のある人 参加費：500円 プログラム： ・基調講演「『にも包括』実現のための取り組みが私たちに問うているもの」／野口正行さん（岡山県精神保健福祉センター 所長） ・パネルディスカッション「未来を語ろう！日々の暮らしの中での『にも包括』実現の風景～それぞれの立場から」／進行：坂本拓さん（精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもびあ代表）、パネリスト：鈴木健司さん（岡山県精神障がい者団体連合会代表）、米山晴巳さん（おかやま精神医療アドボケイトセンター理事）、れもんさん（こどもびあ岡山ぴーち）、かんちゃん（K&代表、こどもびあ岡山ぴーち）、木本達男さん（岡山県精神保健福祉士協会理事）、外山薫さん（一般社団法人わたげ代表理事） ・グループワーク「みんなで考える理想の地域風景」／進行：古橋陽介さん（江戸川区相談支援連絡協議会理事）
参加者数	46人

事業の名称	<p style="text-align: center;"><b>ぴあラボフォーラム</b>  <b>「仲間とつながる～ピアサポートの意味と価値を再考する～」</b></p>
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	ぴあラボ実行委員会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2024 年度
事業の概要	<p>2021 年度から実施してきた「子どもの立場ピアサポートフォーラム」の実行委員とともに、フォーラムの企画や勉強会を続けてきました。24 年度は「ぴあラボ実行委員会」を立ち上げて「ピアサポート」について追究し、見つけたものを発表するとともに、様々な当事者性をもつピアサポート活動、当事者活動に関わる人と一緒に語り合うことで、ピアサポートの本質、意義、価値を再考しました。</p>
日時	25 年 3 月 15 日（土）
場所	オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々なピア活動を知り、知見を広げ、ピアサポートグループの発展継続のための未来への糧とする。</li> <li>・ ピア活動が持続可能な形でさらに広がり、支え合える社会の実現を目指す。</li> <li>・ 「差別の連鎖を断つピアサポート」の形を見つけ、排除ではなく共存を目指す社会をつくる。</li> </ul>
事業の内容	<p><b>【ぴあラボの立ち上げ】</b>  9 月 15 日（日）に、NPO 法人ふうせんの会、コーダえん、精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあの有志メンバーから成る実行委員で、ネクストステップに向けた「未来へつなぐワークショップ」を実施。団体の垣根を越えて支え合い、「ぴあ」を追究していこうと「ぴあラボ」実行委員会を立ち上げた。</p> <p><b>【ぴあラボフォーラム】</b>  対象：「ピアサポート」「当事者活動」に関心がある人 参加費：無料  プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キーノートスピーチ「ぴあラボのあゆみ」丸藤健悟さん（こどもぴあ）</li> <li>・ 話題提供「様々なピアサポートの形からみえてくること～様々な団体の支援を通して～」森玲子さん（東京ボランティア・市民活動センター）</li> <li>・ パネルディスカッション「一人ひとりが考える“ピア”」矢部滋也さん（一般社団法人北海道ピアサポート協会代表理事、日本ピアスタッフ協会会長）、しょうむさん（社会的養護出身者の当事者活動を行っている大学生）、山中葉月さん（NPO 法人ふうせんの会）、村下初海さん（コーダえん）、進行：小林鮎奈さん（こどもぴあ、ヤングケアラー協会）</li> <li>・ グループワーク「私にとってのピアサポート」進行：坂本拓さん（こどもぴあ）</li> <li>・ クロージング</li> </ul>
参加者数	34 人

事業の名称	精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会こどもびあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018年度
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人たちが集まり、自らの体験やこれまで誰にも話すことができなかった思いなど、一人で抱えてきたことを、グループに分かれて語り合うピアサポートの場を、オンラインとリアルで年度内に3回開催しました。そのうち2回は、支援者のオブザーバー参加も認め、子どもの立場の理解を深め、より良い支援につなげる機会としました。当事業団は運営をサポートしています。
日時	①9月8日（日） ②12月15日（日） ③25年3月16日（日）
場所	①②オンライン、③朝日新聞東京本社（東京都中央区）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が、仲間とつながり、生き立ちや経験を語り合い、自らの人生を豊かにするきっかけとする。</li> <li>・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・安心して集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちがSOSを発するきっかけをつくっていく。</li> <li>・子どもの立場のピアサポート活動を後押しする。</li> </ul>
事業の内容	<p>対象： 精神疾患をもつ親に育てられた子どもの立場の人、一部支援者も可</p> <p>参加費： ①②無料 ③500円</p> <p>プログラム：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもびあ」運営メンバー等による体験発表</li> <li>・小グループに分かれての語り合い</li> </ul> </p> <p>※このほか、こどもびあのチームビルディング、組織構築を目的とした内部研修も実施。</p> <p>講師：浦山絵里さん（一般財団法人生涯学習開発財団認定ワークショップデザイナー）</p>
参加者数	①36人 ②21人 ③37人

事業の名称	第41回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	一般財団法人全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（協力）、厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般財団法人日本手話通訳士協会、全日本聾学校長会（以上後援）、日本電気株式会社（NEC）（協賛）
事業開始年度	1984年度
事業の概要	全国から79名の応募があり、「未来を拓く若者の役割」、「挑戦と失敗から学んだこと」いずれかのテーマを選び、原稿・映像審査を経て、コンテストに出場する10名が選ばれました。コンテスト出場者は、秋篠宮家の次女佳子さまご臨席のもと手話によるスピーチで競いました。入賞者は合わせて5名でした。
日時	募集開始：4月1日（月） 審査：7月9日（火）、コンテスト：8月18日（日）
場所	コンテスト：有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進。
事業の内容	<p>◆入賞者</p> <p>1位 森星音（愛知県立旭丘高等学校2年）  2位 前橋真子（山梨県・北杜市立甲陵高等学校2年）  3位 信太美紗生（埼玉県・クラーク記念国際高等学校所沢キャンパス1年）  奨励賞 上村優芽（愛知県・桜花学園高等学校2年）  阿萬暖々果（宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校1年）</p> <p>◆出場者</p> <p>瀬瀬萌花（愛知県立杏和高等学校3年）、和田安音（大阪府立緑風冠高等学校3年）、木田和香奈（愛媛県立宇和島南中等教育学校3年）、宇津百音（愛媛県・済美平成中等教育学校1年）、鶴山權士（熊本県立玉名高等学校1年）  ※入賞者には賞状・トロフィー・盾、NECからの賞品（ノートパソコンやタブレット）が贈呈されました。また、出場者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。</p> <p>◆特別プログラム 講演「東京2025デフリンピックを通してめざすもの」  倉野直紀（全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会事務局長）</p> <p>◆審査員</p> <p>小椋英子・日本手話通訳士協会相談役、川部勝一・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、山根昭治・全日本ろうあ連盟理事、堀米泰晴・全日本ろうあ連盟理事、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、増谷文生・朝日新聞社論説委員</p>
参加者数	79人（応募者）

事業の名称	<b>第44回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会 第33回九州車いすツインバスケットボール選手権大会</b>
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	九州車いすバスケットボール連盟、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	朝日九州：一般社団法人鹿児島県バスケットボール協会（協力）、鹿児島県、薩摩川内市、鹿児島県障害者スポーツ協会など（以上後援） ツインバスケット：熊本県車いすバスケットボール連盟、熊本保健科学大学（以上協力）、熊本県、熊本市など（以上後援）
事業開始年度	朝日九州：1980年度、ツインバスケット：1989年度
事業の概要	いずれも九州車いすバスケットボール連盟に所属するチームを中心に開いている障がい者スポーツの大会です。第1回大会から連盟とともに主催・共催し、助成金支出などで運営を支えています。
日時	朝日九州：12月7日（土）、8日（日） ツインバスケット：25年1月18日（土）、19日（日）
場所	朝日九州：サンアリーナせんだい（鹿児島県薩摩川内市） ツインバスケット：熊本保健科学大学（熊本市）
事業の目的	障がい者スポーツの振興を通して障がい者の心身の健康と社会参加を促進するとともに、選手同士や地域住民らとの交流も推進します。
事業の内容	両大会とも2日間にわたってトーナメントで熱戦を繰り広げ、朝日九州ではライジングゼファーフクオカ Wheelchair（福岡）が3年ぶりの優勝を果たしました。一方、ツインバスケットは下半身だけでなく上半身にも重い障がいがある人も活躍できるように高低二つのゴールがあるのが特徴です。コロナ禍で中止が続き、久々の開催となりましたが、博多パトラッシュ（福岡）が優勝しました。
参加者数	朝日九州：九州各県から9チーム、ツインバスケット：5チーム



熱戦を繰り広げる車いすの選手たち



久しぶりに復活したツインバスケットの大会

事業の名称	セミナー「障がい児・医療的ケア児の親と就労」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	障がい児及び医療的ケア児を育てる親の会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2023 年度
事業の概要	障がい児や医療的ケア児を育てながら就労する親の、仕事と育児の両立について考える事業です。子の年齢で区切ることが難しい障がい児・医療的ケア児の子育てを念頭に置いた支援制度の必要性を広めるために会員が行っている活動紹介や、親同士のつながりを促す交流会をハイブリッド形式で実施しました。
日時	25 年 2 月 22 日（土）
場所	オンライン、朝日新聞東京本社読者ホール（東京都中央区）
事業の目的	セミナーの開催を続けることで参加者の輪を広げ、障がい児や医療的ケア児を育てながら働く親が育児と仕事の両立ができるよう、必要な支援を多くの人に知ってもらう。
事業の内容	<p>プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1部 トークセッション 「日々の両立の悩みとメンバーそれぞれの活動について」 3人のメンバーが、仲間の会を立ち上げて毎月交流会を開いている事例や、小児科の専門医として地域の医療と福祉に貢献する事業など、それぞれの活動や経験について講演しました。</li> <li>・第2部 メンバー交流会 シングルマザーの育児と仕事との両立、勤め先の支援制度を変えるための方策など、複数のテーマから参加したいテーマを選んで、少人数のグループで語り合いました。</li> </ul>
参加者数	140 人



トークセッションの様子

事業の名称	<b>障がいのある人の就労支援事業 パン販売・「地域つながりマルシェ」</b>
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	パン販売：2018年度、地域つながりマルシェ：23年度
事業の概要	東京都中央区内の福祉事業所で作っている製品の販売を、出店場所の提供という形で後押ししています。また半年に1回、区外の事業所にも対象を拡大し、複数の店舗が出店し自主製作品やサービスの紹介をする「マルシェ」も実施しています。
日時	パン販売：毎月1回 地域つながりマルシェ：7月26日（金）、25年3月14日（金）
場所	朝日新聞東京本社本館2階コンコース
事業の目的	障がいのある人が社会で活躍するのを後押しします。日ごろ障がいのある人と接する機会の少ない人には、活躍の様子を見たり接したりする機会にしてもらいます。
事業の内容	<p><b>【パン販売】</b> 会場に隣接する浜離宮朝日ホールで行われるランチタイムコンサートの開催日に合わせ、中央区知的障害者生活支援施設「レインボーハウス明石」が運営する「喫茶アラジン」のパン販売、自主製作品の雑貨販売を行いました。</p> <p><b>【地域つながりマルシェ】</b> 7月26日 参加事業所：アリストランプ（中央区、愛犬用クッキー、ジンジャーイボスティー、ヴィーガンスイーツ）、縁の木（台東区、コーヒー、台東区の事業所製品）、ヒールアップハウス（埼玉県川口市、ベーゴマクッキー、麦味噌キャラメルサンドなど）、リバーサイドつつじ（中央区、トートバッグ、刺しゅう入りふきん）、レインボーハウス明石（中央区、パン、雑貨）、当事業団（能登半島地震復興支援チャリティーつりぼり） ミニ講演協力：石崎美智さん（NPO法人ヒールアップハウス「地域の銘菓を目指して」）、白羽玲子さん（株式会社縁の木「地域を結ぶKURAMAEモデル」）</p> <p>25年3月14日 参加事業所：アリストランプ、耕房“輝”（台東区、はちみつ、お麩ラスク）、たいとう倶楽部（台東区、リサイクル石鹸、革小物）、レインボーハウス明石 ミニ講演協力：田中旭さん（NPO法人障がい者給与補助機構「障がい者アーティストに生きたお金を残す遺贈とは」）</p>
参加者数	

事業の名称	第43回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など（以上後援）
事業開始年度	1982年度
事業の概要	<p>全国の肢体不自由児・者から377点の絵画、コンピュータアート、書の部門で作品が寄せられ、これらの中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計110点、デジタル写真展では415点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計110点が選ばれました。</p> <p>表彰式は対面を前提として実施し、多くの受賞者が式に参加しました。</p>
日時	25年1月24日（金）
場所	文京シビックセンター（東京都文京区）
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めるため。
事業の内容	<p>特賞のうち2作品（絵画、書）に「朝日新聞厚生文化事業団賞」を贈りました。受賞したのは加瀬空詩さん（東京都立村山特別支援学校中学部3年、絵画「観葉植物」）と亀井風介さん（県立青森第一養護学校中学部3年、書「自然」）の2人。</p> <p>選んだ理由について、当事業団の笠原章宏事務局長は、加瀬さんの作品について「植木鉢の大きさを描き分け、緑色がきれいなところに惹かれました」、亀井さんの書は「字のバランスが良く、力強く書かれていることに感動しました」と述べました。</p>
参加者数	



笠原事務局長からお祝いの言葉をかけられる加瀬さん



亀井さん。自身の作品の前で

事業の名称	地域共生社会づくりに認知症マフを活かすセミナー
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018年度（認知症マフワークショップ）
事業の概要	認知症マフが地域包括システムに立脚した視点からどのように役立つのか、ボランティアや福祉医療の専門職に取り組みやすく解説するセミナーを開催し、自身の活動として取り組みたい人向けに、地域福祉、地域医療、当事者の思いといった多角的な情報提供を行いました。
日時	2025年2月20日（木）
場所	朝日新聞大阪本社アサコムホール（大阪市）
事業の目的	認知症マフをきっかけに互助の取り組みが進むことで認知症への正しい理解が深まり、地域共生社会の構築に貢献すること。
事業の内容	<p>プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症マフの概要・各地の取り組み紹介</li> <li>・取り組み紹介</li> <li>①「ボランティアと専門職が認知症マフでつくる西谷地区の人々の交わり」 藤野智誉子さん（兵庫県宝塚市西谷地域包括支援センター職員）</li> <li>②「地域共生社会実現に向けた取り組み、Twiddle Muff が果たす役割」 目麻里子さん（筑波大学医学医療系准教授）</li> <li>・トークセッション「認知症当事者の声を聞くためのヒントー誰もが地域で心豊かに暮らすために」下坂厚さん（フォトグラファー／若年性認知症当事者）、目麻里子さん</li> </ul>
参加者数	51人



下坂厚さんと筑波大学医学医療系准教授の目麻里子さんの対談は参加者から大きな反響がありました



各地のボランティアが製作した認知症マフ

事業の名称	認知症マフワークショップ
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部・茨城県支部（協力）、朝日新聞社なかまある（後援）
事業開始年度	2018年度
事業の概要	「認知症マフ」をボランティアが製作して高齢者施設や病院に贈る、互助の取り組みが各地に広がるようにマフの作り方や活用事例、ボランティア活動について学びます。
日時	9月8日（土）
場所	朝日新聞東京本社読者ホール
事業の目的	認知症マフを通じて認知症の当事者支援、当事者を支える人の支援を行い、認知症に対する偏見を取り除き、認知症にやさしい地域づくりを促進する。
事業の内容	プログラム： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症マフの基礎知識</li> <li>・ 活動報告「認知症カフェにマフを置いてみたら…」中島珠子さん（コミュニティナース）</li> <li>・ ミニ講演「地域共生社会実現に向けた取り組み—Twiddle Muff が果たす役割—」目麻里子さん（筑波大学医学医療系准教授）</li> <li>・ マフづくり実践 能勢マユミさん（ニット作家）</li> </ul>
参加者数	一般参加者 57 人、関係者 15 人、計 72 人



ニット作家・能勢マユミさんの指導で適切な製作方法を学びました



世界アルツハイマー月間中の開催ということもあり、公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部、茨城県支部には会場内に認知症相談ブースを設置していただきました

事業の名称	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019年度
事業の概要	小学校4～6年生を対象にした、認知症について学ぶ特別授業です。特徴はVR（バーチャルリアリティー）を使った認知症の人が見る世界の疑似体験です。
日時	①6月6日（木）②7月25日（木）③8月6日（火）④8月21日（水） ⑤⑥10月22日（火）⑦10月24日（木）⑧⑨11月5日（火） ⑩⑪11月27日（水）⑫12月6日（金）⑬2025年2月26日（水）
場所	①神奈川県厚木市立小鮎小4年生 ②福岡県吉富町地域包括支援センター ③兵庫県三田市地域包括支援センター ④大阪府枚方市健康福祉政策課 ⑤⑥大阪府枚方市立樟葉西小5年生 ⑦広島県世羅町立せらにし小5、6年生 ⑧⑨大阪府枚方市立招提小4年生 ⑩⑪大阪市立西天満小5年生 ⑫広島県世羅町立甲山小4年生 ⑬広島県世羅町立せらひがし小6年生
事業の目的	認知症について先入観を持たない児童期のうちに、認知症のことを正しく学び、認知症に対して差別や偏見を持たない、認知症の人と地域でともに暮らす「共生社会」について考えます。
事業の内容	小学校や地域の集会施設で約100分の授業を行います。双方向の対話を意識した基礎学習、VR体験、グループワークが主な内容です。
参加者数	計368人



大阪市立西天満小での授業の様子



広島県世羅町立せらひがし小での授業の様子

事業の名称	高齢者施設訪問事業 ゆうゆうビジット
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2010 年度
事業の概要	外出の機会が少ない高齢者施設の入所者や利用者らを対象に、音楽家の生演奏や力士との交流など憩いのひとときをお届けするプログラムです。
日時	①7月29日（月）②8月29日（木）③9月23日（月）④10月2日（水） ⑤10月29日（火）⑥12月8日（日）⑦1月28日（火）⑧3月24日（月）
場所	①介護老人保健施設「アルマ・マータ」（岐阜県多治見市） ②特別養護老人ホーム「世田谷希望丘ホーム」（東京都世田谷区） ③ケアハウスおやさと（福岡県柳川市） ④特別養護老人ホーム柏きらりの風（千葉県柏市） ⑤盲養護老人ホーム「槻ノ木荘」（大阪府高槻市） ⑥特別養護老人ホーム「明山荘」（山梨県北杜市） ⑦高齢者複合施設「東京清風園」（東京都墨田区） ⑧総合老人福祉施設「テnderヒル御所」（奈良県御所市）
事業の目的	特別養護老人ホームや介護福祉施設などで生活する高齢者の生きがいがづくり。
事業の内容	①⑧高砂部屋の力士との交流 ②俳優・日色ともゑさんによる朗読と MUZIC@NET/ マリオネットの演奏 ③ギタリスト福田進一さんのミニコンサート ④⑦バイオリニスト川島成道さんのミニコンサート ⑤ベルリントリオのミニコンサート ⑥日本ユニバーサルボッチャ連盟によるボッチャ体験
参加者数	①50人 ②50人 ③40人 ④50人 ⑤30人 ⑥70人 ⑦90人 ⑧150人／合計約530人



俳優の日色ともゑさん



高砂部屋の力士と施設職員の取り組み

事業の名称	朝日高齢者福祉セミナー2024
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	福祉と看護の研究学会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会（後援）ほか
事業開始年度	1989年ごろ
事業の概要	高齢者医療・福祉について様々な角度から考える実践的なセミナーです。保健・医療・福祉などの専門職や当事者、学生などが参加し、国の医療や年金、介護など政策動向の研究や実践報告などを行っています。
日時	5月11日（土）
場所	愛知文教女子短期大学（愛知県稲沢市）
事業の目的	保健・医療・福祉など様々な側面から、高齢者が生きがいを持って豊かに生きていくための課題を研究します。
事業の内容	<p>【午前の部】「福祉と看護の研究学会研究大会 2024」          口頭発表（5名）とポスター発表（5名）が行われ、参加者との活発な質疑応答を行いました。</p> <p>【午後の部】「朝日高齢者福祉セミナー2024」          「食を考える—健康に生き抜くために—」をテーマに、塚原丘美さん（名古屋学芸大学管理栄養学部教授）による基調講演とシンポジウムが行われました。</p> <p>シンポジウムは、鋤柄悦子さん（愛知文教女子短期大学生活文化学科）がコーディネーターとして「世代別の食生活を考える」というテーマで話し合いました。</p> <p>「子どもの食とアレルギー」について渡辺香織さん（愛知文教女子短期大学生活文化学科）、「壮年期の栄養」について有尾正子さん（愛知文教女子短期大学生活文化学科）、「元気になれる高齢者の食事」について濱嶋いずみさん（特別養護老人ホームすずの郷 看護・介護・保育主任）から実践報告がありました。</p>
参加者数	51人

## 石川県立輪島漆芸技術研修所に 2085 万円を助成

能登復興支援を呼びかけ 2025 年 1 月に実施した、「朝日チャリティー色紙展・輪島応援工芸展」の売り上げ総額 2316 万円から、開催経費の一部を除いた 2085 万円を能登半島地震で被災した石川県立輪島漆芸技術研修所へ助成しました。輪島漆器の復興を担う研修生のために役立てていただきます。

同年 3 月 28 日に朝日新聞厚生文化事業団の是永一好業務執行理事が研修所を訪れ、所長で人間国宝の小森邦博さんに目録を手渡しました。小森所長は「多くの方から熱いご支援をいただき、輪島に残って漆芸を続けようという若者たちを育てて、地域の未来につなげたいという思いが強くなりました」「応援している人がいるから頑張ろうと皆に周知したい」と話しました。



助成金を受け取る小森邦博・輪島漆芸技術研修所長（左）  
と是永一好・朝日新聞厚生文化事業団業務執行理事



研修所の全景

## 「日本在宅ケア・サミット」に助成

高齢化の進む能登半島で、震災でさらに困難になった地域での暮らし継続のために必要なことはなにかなどを考える「日本在宅ケア・サミット 2024」（日本在宅ケアアライアンス主催、朝日新聞厚生文化事業団など後援）に、復興支援の一環として 50 万円を助成しました。

## 能登豪雨救援金

9 月に発生した能登豪雨で被災された方のために、朝日新聞社とともに救援金を募りました。総計 2731 万 9823 円（994 件）が全国から寄せられ、全額を被災者への義援金として日本赤十字社に寄託しました。

## 台湾東部沖地震救援金

4 月に発生した台湾東部沖地震で朝日新聞社とともに受け付けた救援金には、全国から 423 件、総計 973 万 2525 円が寄せられました。全額を日本赤十字社に寄託。同社を通じて救援・復興支援活動に充てられました。

事業の名称	能登こども家庭応援団
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	全国子ども家庭養育支援研究会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	全国児童家庭支援センター協議会、公益財団法人全国里親会、日本ファミリーホーム協議会、児童家庭支援センターあすなろ（以上協力）
事業開始年度	2024 年度
事業の概要	能登半島地震で被害にあった保育所へ保育士など児童福祉の専門家を派遣し、さまざまな面で子どもや親、施設職員を支えました。
日時	4月30日（火）～6月28日（金）
場所	石川県穴水町の保育所
事業の目的	自らも被災しながら、子どもたちのケアにあたっている施設の職員や保育士らを支援する。
事業の内容	<p>応援団は原則、保育士や社会福祉士、公認心理師の資格を持つなどした3人ひと組で結成。閉園した児童養護施設の建物（宝達志水町）で1週間（4泊5日）寝泊まりしながら活動しました。</p> <p>町内の三つの保育所を分担し、登園する子どもたちを迎えたり、食事やトイレの付き添いをしたり、発達に特性がある子どもの個別ケアなどを行いました。</p> <p>派遣にあたっては、保育所や行政との調整、求められる支援についてのヒアリングや活動先の選定などの現地コーディネートは同町にある児童家庭支援センター「あすなろ」が担いました。</p> <p>◆協力団体と派遣期間</p> <p>札幌市・麦の子会（5月13日～6月28日）</p> <p>福島県・ほしくま児童家庭支援センター（5月27日～5月31日）</p> <p>福島県・児童家庭支援センターあおば（5月27日～5月31日）</p> <p>横浜市・児童家庭支援センターつるみらい（6月10日～6月14日）</p> <p>岐阜県・日本児童育成園（6月3日～6月7日）</p> <p>福井県・児童家庭支援センター一陽（4月30日～5月2日）</p> <p>京都府・丹後こども家庭支援センターCOCO（6月17日～6月21日）</p> <p>京都府・山城こども家庭センターだいわ（6月24日～6月28日）</p> <p>広島市・児童家庭支援センターわかくさ（5月13日～5月17日）</p> <p>山口県・こども家庭支援センター海北（5月13日～5月17日）</p> <p>山口県・同朋福祉会（5月20日～5月24日）</p>
参加者数	「こども応援団」の参加者・のべ約30人

事業の名称	「子どもの心のケアを一緒に考える」講演会・ワークショップ 仮設住宅でのビーズクラフトとおしゃべりの会
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	児童家庭支援センターあすなろ、全国子ども家庭養育支援研究会（以上協力）、 穴水町（後援）
事業開始年度	2024 年度
事業の概要	被災体験が子どもの心理に及ぼす影響や、状況に応じた接し方を、専門家による講演会とワークショップを通して学びました。翌日には、町内の仮設集合住宅を講師が訪問し、クラフトで手を動かしながら自由に話す会を開きました。
日時	講演会・ワークショップ：25 年 1 月 18 日（土） おしゃべりの会：25 年 1 月 19 日（日）
場所	講演会・ワークショップ：穴水町保健センター おしゃべりの会：穴水町内の仮設住宅
事業の目的	被災した子どもたちを支える。
事業の内容	<p>【講演会・ワークショップ】</p> <p>子どものグリーフ（悲嘆）ケアをテーマに、米国・ハワイ州でグリーフサポートに取り組む団体、キッズ・ハート・ツー・ハワイのシンシア・ホワイトさんが講演。グリーフの影響も遊びを通して癒やすことができると話し、子どもの状況に応じた遊び方などを例示しました。遊びの一例として、ビーズを使ったブレスレットを作るワークショップを行いました。</p> <p>【おしゃべりの会】</p> <p>子どもから高齢者まで約40人が集会所に集まり、米国製のビーズでブレスレットを作りながら、災害前のことや現在の生活のことなどを自由に話しました。</p>
参加者数	講演会・ワークショップ：地元の保育士や保健師、心理士、相談員、保護者ら 14 人 おしゃべりの会：約 40 人



講演会では、子どもに寄り添う遊び方などを学んだ。

事業の名称	災害時大学ボランティアセンター支援
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019年度
事業の概要	<p>災害時の早期活動を支援するネットワークづくりを進め、新たに1大学と「災害時の支援活動の協力に関する協定」を締結しました。24年度末で、17団体と締結しています。</p> <p>2024年元日に発生した能登半島地震においては、協定に基づき活動資金の助成を行いました。また、活動の報告会も協定大学を対象に開催し、各団体が活動を通して得た経験や学びを共有しあい、相互交流を深める機会としました。</p>
日時	協定締結、資金助成：随時 活動報告会：7月6日（土）
場所	活動報告会：オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに携わる学生同士の学び合いの機会提供、ネットワークの創出により、各地での学生ボランティア活動を発展させる。</li> <li>・災害時、被災した地域のニーズに応じた早期の支援活動ができるよう後押しする。協力関係を築ける団体を増やし、支援できる枠組みを強化する。</li> </ul>
事業の内容	<p><b>【活動報告会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告：名城大学、龍谷大学、中央大学、神戸学院大学</li> <li>・ワークショップ：講師／早瀬昇さん（大阪ボランティア協会理事長）、川口謙造さん（神戸学院大学学生支援グループ ボランティア活動支援室 ボランティアコーディネーター）</li> </ul> <p>講義：「被災された方々に対して私たちができることは…」 グループワーク「災害ボランティア活動後の気持ちへの向き合い方」</p> <p>◆参加大学（五十音順） 大阪公立大学（大阪）、神田外語大学（千葉）、熊本学園大学（熊本）、神戸学院大学（兵庫）、神戸大学（兵庫）、淑徳大学（千葉）、聖学院大学（埼玉）、高崎健康福祉大学（群馬）、中央大学（東京）、名城大学（愛知）、龍谷大学（京都）</p> <p><b>【能登半島地震における支援活動への資金助成】</b>（6大学へ計178万8871円） 神戸学院大学、淑徳大学、聖学院大学、高崎健康福祉大学、龍谷大学へ被災地において行う災害発生初期の支援活動のための資金として、学生本人の現地までの交通費や宿泊費、必要な消耗品購入費などとして最大で50万円を助成。 そのほか、熊本学園大学の被災地応援の取り組みに助成。</p>
参加者数	活動報告会：11大学、29人（学生18人、職員11人）

事業の名称	朝日のあたる家
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	一般社団法人みらい創造財団朝日のあたる家
後援等	
事業開始年度	2012 年ごろ
事業の概要	<p>朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金をもとに、13 年 2 月に岩手県陸前高田市米崎町に開設され、福祉、医療という枠組みを超えた様々な地域交流プログラムを行ってきました。</p> <p>その後、22 年 11 月に一般財団法人「みらい創造財団朝日のあたる家」が設立されました。これまでの会館運営中心の活動をさらに広げ、障がいのある人や地域の高齢者、農家の方々との「農福連携事業」も開始し、人材不足の農業や少子高齢化が進む地域の未来を見据えた活動を展開していきます。</p>
日時	通年
場所	岩手県陸前高田市
事業の目的	<p>東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。</p> <p>震災後、人口減少や少子高齢化による弊害が顕著に表れている岩手県内において、住み慣れた地域で人々が支えあい、生きがいを持って暮らしていけるように様々な取り組みを行っています。</p>
事業の内容	<p>農福連携を軸に産業と福祉の連携、産業と地域の連携、農地保全や廃棄物削減などの SDGs への取りみのほか、朝日のあたる家を拠点とするコミュニティー活動を通じた多世代の社会参加の機会を提供しました。</p> <p>事業団は、一般社団法人みらい創造財団朝日のあたる家に対し、2000 万円を助成しました。</p>
参加者数	会館利用者 4497 人

## 東日本大震災へのご寄付、24 年度は約 100 万円

事業団の東日本大震災救援事業へ 2024 年度に寄せられたご寄付は 46 件、104 万 7587 円でした。東日本大震災救援募金（震災直後から 12 年 3 月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、24 年 3 月末で約 9 万件、総額 37 億 6029 万 9654 円となりました。

### 【年度別】

10 年度：17 億 1703 万 9856 円▼ 11 年度：17 億 9627 万 3050 円▼ 12 年度：1 億 1362 万 4052 円▼ 13 年度：4572 万 1384 円▼ 14 年度：2359 万 9869 円▼ 15 年度：1847 万 7091 円▼ 16 年度：955 万 8676 円▼ 17 年度：767 万 8278 円▼ 18 年度：774 万 7348 円▼ 19 年度：530 万 5268 円▼ 20 年度：326 万 1002 円▼ 21 年度：833 万 5999 円▼ 22 年度：171 万 7701 円▼ 23 年度：91 万 2493 円

事業の名称	すくすくの森相談室
事業種別	公益事業（医療と公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	こども本の森 中之島（協力）
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	小児科医や助産師らを相談員に招き、大阪市の図書館「こども本の森 中之島」で定期的に開催している、乳幼児を育てる保護者の不安や迷いに寄り添うグループ子育て相談です。
日時	毎月 1～2 回（計 20 回）
場所	こども本の森 中之島（大阪市）
事業の目的	乳幼児の子育てをしている保護者に有益な情報提供やコミュニケーションを提供し、迷いや不安から育児困難の状況に陥ることがないように、関わりを持ちます。
事業の内容	毎月、小児科医、助産師、インストラクターのいずれかを相談員に招き、①グループ子育て相談タイム②フリータイム、の流れで、話をしたりおもちゃで遊ぶなど、親子で緩やかに過ごしてもらおう約 80 分間のプログラムです。身体測定やこども本の森スタッフによる絵本の読み聞かせも行っています。
参加者数	309 人



小児科医や助産師によるグループ子育て相談の後には、こども本の森 中之島スタッフによる絵本の読み聞かせもあります



会場のこども本の森 中之島は建築家・安藤忠雄氏によって建設され、大阪市に寄贈されました

事業の名称	自殺予防公開講座「若草プロジェクトの活動と孤立・孤独」
事業種別	公益事業（福祉啓発事業）
主催	社会福祉法人福岡いのちの電話、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	福岡県、福岡市、KBC、朝日新聞社（以上後援）
事業開始年度	2005年度
事業の概要	国内の年間自殺者が2万人超という高止まりが続く中、自殺予防につながる講演会を年に1回開催しています。誰でも無料で参加できます。一般の市民のほか、「いのちの電話」のボランティアスタッフらも多数参加しています。
日時	10月26日（土）
場所	レソラホール（福岡市）
事業の目的	自殺予防の啓発に加え、この機会に「いのちの電話」の活動を広く市民に知っていただくこと。
事業の内容	元厚生労働事務次官の村木厚子さんが、生きづらさを抱えて苦しむ若い女性らを支える「若草プロジェクト」について講演しました。村木さんはかつて冤罪事件に巻き込まれ、164日間拘留された自身の経験を振り返り、「人は誰でも一夜にして（誰かに）支えられる存在になる」と述べ、温かい支援や励ましの必要性を訴えました。
参加者数	200人



講演する村木厚子さん



多くの市民が詰めかけた会場

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別	公益事業（福祉啓発事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	1999 年度
事業開始年度	その他
事業の概要	九州・山口地区を対象に、地域に根差した社会福祉活動に継続的に取り組んでいる団体に対して助成金を支給しています。
時期	年1回（申請書の提出を受けて審査、2～3月に支給）
助成の目的	地域で続いている地道な社会福祉事業への支援が目的です。使途は問わず、運営費として活用してもらっています。
助成団体	社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市） 社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市） 公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市）
助成した人数	（団体に対する助成）
助成総額	45万円
その他	福岡いのちの電話と北九州いのちの電話は、それぞれ年中無休・24時間態勢で、深い悩みを抱えている人の無料の電話相談に応じています。メールでの相談にも一部対応しています。ただ、ボランティア相談員の高齢化・減少が深刻な課題になっています。 福岡県交通遺児を支える会は、交通事故で父母らを亡くした子どもらに返済不要の奨学金を給付するなどの支援活動を続けています。



助成金の目録を受け取った助成団体のみなさん

事業の名称	第76回保健文化賞
事業種別	公益事業（医療と公衆衛生事業）
主催	第一生命保険株式会社
後援等	朝日新聞厚生文化事業団、厚生労働省、社会福祉法人NHK厚生文化事業団（以上後援）
事業開始年度	1950年度
事業の概要	健康増進、疾病予防などの保健衛生分野、高齢者・障がい者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した地道で身近な活動や、実際的な活動に継続的に取り組んできた団体や個人を表彰します。 受賞者には感謝状、賞金（団体200万円、個人100万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞（トロフィー）などを贈呈しています。
日時	募集：2月1日（木）～4月15日（月） 贈呈式：12月19日（木）
場所	明治記念館（東京都港区）
事業の目的	保健衛生に従事する方々の功績や労苦に対し、感謝と敬意をささげる。
事業の内容	◆第75回受賞者（10団体、4人） 【団体】 ・秋田県在宅保健師等ゆずり葉の会（秋田県） ・千葉骨髄バンク推進連絡会（千葉県） ・アイエスゲート（東京都） ・がんサポートコミュニティー（同） ・心魂プロジェクト（神奈川県） ・子ども自立の郷ウォームアップスクールここから（滋賀県） ・マイママ・セラピー（同） ・京都禁煙推進研究会（京都府） ・光心会（大分県） ・太陽の家（同） 【個人】 ・日本健康加齢推進機構理事長・大田仁史（福島県） ・日本健康・栄養システム学会専務理事・杉山みち子（神奈川県） ・医師・高熊達朗（同） ・元神戸薬科大学教授・沼田千賀子（兵庫県）
参加者数	応募総数34件（団体26件、個人8件）



第76回保健文化賞の受賞者ら

事業の名称	朝日チャリティー美術展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度からリニューアルして開催
事業の概要	日本画家、洋画家、陶芸家などの美術家の出品作品をインターネットで展示販売し、収益を社会福祉事業に充てるチャリティー展です。東京で実展示も行いました。
日時	ネット展示：6月5日（水）～25日（火） 東京会場：14日（金）～19日（水）
場所	インターネット開催、有楽町朝日ギャラリー（東京会場・東京都千代田区）
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	173名の作家から寄せられた作品をインターネット上で展示し、サイレントオークション形式で販売しました。 ◆主な出品作家（敬称略） 石踊紘一、伊勢崎淳、井上萬二、井口由多可、今井喬裕、岩波昭彦、大津英敏、岡信孝、笠井誠一、川端近左、黒木国昭、酒井英利、笹本正明、関谷理、千住博、高木聖雨、玉那覇有公、徳田八十吉、中島潔、永瀬武志、中村宗弘、福井江太郎、福岡通男、藤原秀一、二川和之、増村紀一郎、宮田亮平、村山明、吉田美統
参加者数	期間中の入札数 451件

事業の名称	朝日チャリティー色紙展・輪島応援工芸展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度
事業の概要	24年元日の地震、9月に発生した豪雨災害により大きな被害を受けた能登半島の復興のため、著名人や漫画家の方々から寄贈された色紙や、輪島市在住の人間国宝 漆芸作家の小森邦衛先生をはじめ輪島にゆかりがある工芸作家の作品を販売しました。
日時	2025年1月14日（火）～1月28日（火）
場所	インターネット開催
事業の目的	収益は売り上げから開催諸経費の一部を除いた2085万円を能登半島地震で被災した石川県立輪島漆芸技術研修所へ復興を担う研修生のために助成。
事業の内容	<p>87人の著名人や漫画家の方々から寄贈された107作品、10人の工芸作家から寄贈された11点を、インターネット上で展示し、サイレントオークション形式で販売しました。</p> <p>◆寄贈いただいた方々（敬称略）</p> <p>色紙展：</p> <p>藍弥生、赤井勝、肋骨凹介、伊東豊雄、伊藤秀男、井上芳雄、岩明均、岩本ナオ、上野道善、薄場圭、蛭原あきら、大白小蟹、オザキミカ、片山治之、かっぴー、假屋崎省吾、かわぐちかいじ、北見けんいち、きむらゆういち、清原なつの、隈研吾、藏丸竜彦、黒田潔、小林有吾、小山愛子、紺野アキラ、齊木久美子、坂上暁仁、佐藤邦雄、シゲタサヤカ、下瀬翠、seko koseko、千玄室、千宗室、千宗守、高田明浦、TAKAHIRO、多川俊映、竹宮恵子、田島征三、竜山さゆり、谷口智則、俵万智、ちばてつや、ちほちほ、趙治勲、tupera tupera、泥ノ田犬彦、にごたろ、西村敏雄、野村俊夫、野村万作・野村萬斎・野村裕基、萩尾望都、爆笑問題、初丸うげべそ、羽生善治、はまじあき、はまのゆか、ぱらり、ビートたけし、ヒサクニヒコ、弘兼憲史、マツモトヨーコ、三浦知良、三香見サカ、美樹本晴彦、溝呂木陽、三好貴子、村上康成、モリコロス、森清範、やくみつる、安彦良和、矢部太郎、山口つばさ、山口哲司、山口マサル、やましたこうへい、山地ひでのり、山田ヒツジ、山中伸弥、山村浩二、山村東、吉田類、蓬田やすひろ、ルメール</p> <p>輪島応援工芸展：</p> <p>内野薫、内野都、大角裕二、鬼平慶司、川北良造、小森邦衛、田中義光、西勝廣、水尻清甫、山田勘太</p>
参加者数	期間中の入札数 2341件

事業の名称	第74回チャリティーコンサート「メサイア」
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	国立大学法人東京藝術大学（協力）、公益財団法人原田積善会（特別協賛）
事業開始年度	1951年度
事業の概要	東京藝術大学音楽学部の協力を得て、毎年歳末に開催しているチャリティーコンサート。演目は慈善を目的とした演奏会の源流ともいわれるG・F・ヘンデルの「メサイア」。
日時	12月19日（木）
場所	東京文化会館大ホール（東京都台東区）
事業の目的	収益の一部を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	オラトリオ「メサイア」の全曲演奏。 【出演】 演奏：藝大フィルハーモニア管弦楽団 独唱：東京藝術大学大学院生 神原愛可・日野祐希（ソプラノ）、松岡なつ美（アルト）、小野颯介・野中裕太（テノール）、及川泰生（バス） 合唱：東京藝術大学音楽学部声楽科学生 指揮：山下一史 合唱指揮：辻秀幸 チケット代：SS席＝9000円、S席＝6000円、A席＝5000円、B席＝4000円、C席＝3000円
参加者数	入場者1540人
収入	951万3000円（チケット収入、プログラム・ポスター販売、協賛金の合計）



演奏の様子。



ホワイエでは、東京藝術大学DOORプロジェクトの修了生グループ「のとびら」が、能登半島地震をきっかけに立ち上げた「ふだん着の言葉で語られる被災」を伝えていく活動の展示を行いました。

事業の名称	親子で楽しむクリスマスコンサート
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	株式会社ソングブックカフェ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2000 年度
事業の概要	子どもから大人まで親子で一緒に楽しめる参加型のコンサート。24 回目を迎えた 24 年度は、中川ひろたかさん率いるソングブックカフェメンバーらが、音楽やダンス、たくさんのお遊び、絵本の朗読など盛りだくさんの内容をお届けしました。
日時	12 月 22 日（日）
場所	有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる機会とするとともに、保育者が子どもとのかかわりのヒントを得られるようにする。</li> <li>・収益の一部を福祉事業に充てる。</li> </ul>
事業の内容	<p>出演者： 中川ひろたかさん、鈴木翼さん、ロケットくれよん（山口たかしさん、高田さとしさん）、福田翔さん、gaagaaS（まつむらしんごさん、別府のどかさん）、佐藤友成（佐藤克彦さん、友成好弘さん）</p> <p>内容： 「世界中のこどもたちが」や「ともだちになるために」のほか、クリスマスメドレーの演奏、絵本の朗読、子どもたちも一緒に参加できる「あそびうた」などが披露されました。</p> <p>チケット代金： 前売 3300 円 当日 3850 円（税込、全席指定、大人・子ども同額）</p>
参加者数	405 人



鈴木翼（写真左）さんと福田翔さん（写真右）によるあそびうたのステージ



中川ひろたかさんの歌で温かい空気に包まれました

## 朝日福祉ガイド 本・DVD

### 朝日福祉ガイドブック

- ・ 四行からはじめる遺言作成 Q & A 1,320 円
- ・ 生き方、逝き方ガイドブック 1,320 円
- ・ なるほど高次脳機能障害 1,320 円
- ・ みんなのうつ 1,100 円
- ・ 認知症とともに 1,100 円
- ・ 自閉症の人たちを支援するということ 880 円
- ・ 自閉症のひとたちへの援助システム 550 円
- ・ 100%あらかく 660 円
- ・ 精神障害者のホームヘルプサービス 880 円

### 朝日福祉ガイド DVD

- ・ 自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～  
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～  
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の子どもの評価 生活スキル編  
全4巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
- ・ 自閉症の子どもの自立課題  
全3巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
- ・ TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～  
各巻 3,080 円  
自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方  
親のための TEACCH プログラム  
教師のための TEACCH プログラム  
青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD ともに価格はいずれも税込。

## 主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事	
	主催者 ▽会場	

### ■本部（東京）

4～10月	第76回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会など ▽NHK 名古屋放送センタービル（名古屋市）	後援
4/13,4/27・28, 5/11,5/19	令和6年度愛知県障害者スポーツ大会 愛知県、愛知県社会福祉協議会 ▽名古屋グランドボウル（名古屋市）ほか	後援
4/14、21	第44回愛知県聴覚障害者体育大会 愛知県聴覚障害者協会ほか ▽北名古屋市健康ドーム（愛知県北名古屋市）ほか	後援
4/15～17	第13回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」 NPO 法人ゴールデンウェーブ ▽横浜みなとみらいホール・大ホール（横浜市）	特別 後援
4/19～ 11/21	第21回名古屋市障害者スポーツ大会 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会ほか ▽名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
6/1～2	第39回 DPI 日本会議全国集会 DPI 日本会議 ▽オンライン	後援 助成
6/3～ 2025/1/31	第22回「高校生ふくし文化賞 エッセイコンテスト」 日本福祉大学、朝日新聞社 ▽朝日新聞名古屋本社（名古屋市）	後援
6/6～9	第39回全国聴覚障害者写真コンテスト 全日本ろうあ連盟 ▽和歌山城ホールほか（和歌山市）	後援
6/14	日本聾話学校チャリティー映画会 日本聾話学校チャリティー映画会実行委員会 ▽日本教育会館一ツ橋ホール（東京都千代田区）	後援
6/21、22	第73回関東聾話学校陸上競技大会 関東聾話学校体育連盟 ▽県営愛鷹広域公園（静岡県沼津市）	後援
6/22	第7全国視覚障害者囲碁大会 日本点字図書館、日本福祉囲碁協会 ▽リフレッシュ氷川（東京都渋谷区）	協賛 助成
7/1～31	2024年「頭頸部外科月間」 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 ▽全国各地	後援
7/6	第61回心身障がい問題を考える集い あさみどりの会ほか ▽ウイंकあいち（名古屋市）	後援
7/7	第40回愛知県聴覚障害者大会 愛知県聴覚障害者協会 ▽愛三文化会館（愛知県大府市）	後援
7/22～ 8/25	第41回福祉施設絵画展 名古屋市社会的養育施設協議会ほか ▽島の駅 SHINOJIMA（愛知県南知多町）ほか	後援
7/25、26	第73回関東聾話学校バレーボール大会 関東聾話学校体育連盟 ▽所沢市民体育館（埼玉県所沢市）	後援
8/17・18,9/15, 10/20,11/17	第50回愛知心理療育キャンプ 愛知心理療育親の会 ▽刈谷市北部生涯学習センターほか	後援
8/28～30	第75回全日本少年野球大会 こども家庭庁、全日本少年野球連盟ほか ▽高崎城南球場（群馬県高崎市）ほか	後援
9/6	第4回全国子ども家庭養育支援地域ネットワークセミナー（山口大会） 全国子ども家庭養育支援研究会 ▽かめ福オンプレイス（山口市）	後援
9/10～ 12/10	第72回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会 ▽愛知県内	後援
9/21	光バンドチャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル 東京光の家 ▽ひの煉瓦ホール（東京都日野市）	後援
9/21、22	第46回全国視覚障害者将棋大会 日本視覚障害者団体連合 ▽ほほえみの宿滝の湯（山形県天童市）	協賛

日程	催事	
	主催者 ▽会場	
9/22	第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンス甲子園実行委員会 ▽米子コンベンションセンター（鳥取県米子市）	後援
9/22	発達障害当事者会フォーラム 2024in 東京 発達障害当事者協会 ▽国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）	後援
9/27	第54回朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会 ▽ホテルメトロポリタン（東京都豊島区）	後援
9/30	令和6年度第59回東京都老人クラブ芸能大会 東京都老人クラブ連合会、東京都 ▽文京シビック大ホール（東京都文京区）	後援
10/2	第34回国民の健康会議 全国公私病院連盟 ▽日本教育会館一ツ橋ホール（東京都千代田区）	協賛
10/2～4	H.C.R2024 第51回国際福祉機器展&フォーラム 全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会 ▽東京ビッグサイト（東京都江東区）	後援
10/4～6	第49回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 全日本ろう社会人軟式野球連盟 ▽久宝寺緑地公園軟式野球場（大阪府八尾市）ほか	後援
10/12	2024年第16回全国精神保健福祉家族大会～みんなネット北海道大会 全国精神保健福祉連合会 ▽北海道大学（札幌市）	後援
11/1～3	サイトワールド 2024 NPO サイトワールド ▽すみだ産業会館サンライズホール（東京都墨田区）	後援
11/2	第45回全国歯科保健大会 厚生労働省、日本歯科医師会ほか ▽熊本城ホール（熊本市）	後援
11/2～4	第47回日本スリーデーマーチ 東松山市、日本ウォーキング協会ほか ▽比企丘陵一帯（埼玉県東松山市ほか）	後援
11/8、9	きょうされん第47回全国大会 きょうされん ▽YMIT アリーナほか（滋賀県草津市）	後援
11/9	第21回本間一夫文化賞 日本点字図書館 ▽日本点字図書館（東京都新宿区）	後援
11/24	第22回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート 日本点字図書館 ▽東京文化会館小ホール（東京都台東区）	後援
11/26	令和6年度全国社会福祉大会 全国社会福祉協議会 ▽浅草公会堂（東京都台東区）	後援
11/30	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会 あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会 ▽名古屋市中区役所ホール	後援
12/2	第62回「弘済学園 わたしたちが創る展」 鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会 ▽JR 東京駅動輪の広場（東京都千代田区）	後援
12/7	シンポジウム「文化としての大学メサイア」 立教大学教会音楽研究所 ▽立教学院諸聖徒礼拝堂（東京都豊島区）	後援
12/8	第63回愛知県身体障害者福祉大会 愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか ▽田原文化会館（愛知県田原市）	後援
12/15	第69回名古屋市身体障害者福祉大会 名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋市 ▽名古屋市中区役所ホール	後援
12/24	第73回東京都社会福祉大会 東京都、都社会福祉協議会ほか ▽東京都庁第一本庁舎（東京都新宿区）	協賛
12/25	浦和学院高等学校吹奏楽部 第19回チャリティーコンサート 浦和学院高等学校吹奏楽部 ▽さいたま市文化センター大ホール	後援
2025/1/23	第72回愛知県社会福祉大会 愛知県ほか ▽愛知県体育館ドルフィンズアリーナ（名古屋市）	後援
1/29～2/2	第59回名古屋市障害者作品展 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽市民ギャラリー矢田（名古屋市）	後援

日程	催事		
	主催者	▽会場	
1/31～2/2	天皇杯 第50回記念日本車いすバスケットボール選手権大会 日本車いすバスケットボール連盟、日本パラスポーツ協会ほか	▽東京体育館（東京都渋谷区）	後援
2/8、9	日本自閉症協会第28回全国大会 ALL かながわ大会 日本自閉症協会、神奈川県自閉症協会ほか	▽鎌倉芸術館大ホール（神奈川県鎌倉市）	後援
3/1～31	2025年「耳鼻咽喉科月間」 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	▽全国各地	後援
3/2	第43回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい 愛知県聴覚障害者協会ほか	▽刈谷市総合文化センター（刈谷市）	後援
3/8	メンタルヘルスの集い（第39回日本精神保健会議） 日本精神衛生会	▽御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）	後援
3/8	日本児童養護実践学会 総会・第17回研究大会 日本児童養護実践学会	▽四条畷学園短期大学清風学舎（大阪府大東市）	後援
3/22	リカバリー全国フォーラム2024 地域精神保健福祉機構	▽オンライン	後援
3/29	川島成道チャリティプログラム2025 川島成道ヴァイオリニストリサイタル 川島成道音楽事務所	▽浜離宮朝日ホール（東京都中央区）	後援

#### ■大阪事務所

4/1～5/25	2024年度「地域保健福祉研究助成」「シニアボランティア活動助成」「ビジネスパーソンボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団	▽大同生命大阪本社（大阪市）	後援
4/14、6/9、8/18	第14回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟	▽熊本市水前寺野球場（熊本県）、久留米市宝満川野球場（福岡県）、大牟田市延命球場（同）	後援
4/17～19	バリアフリー2024 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ	▽インテックス大阪（大阪市）	後援
5/19	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西ブロック講演会 全国遷延性意識障害者・家族の会	▽ピアザ淡海（滋賀県大津市）	後援
5/29～6/3、6/6～11	第58回西部伝統工芸展 日本工芸会、同会西部支部、朝日新聞社	▽ソラリア西鉄ホテル福岡（福岡市）、福岡三越（同）、鶴屋百貨店（熊本市）	協力
6/16	第42回日本ライトハウス チャリティコンサート 日本ライトハウス	▽ザ・シンフォニーホール（大阪市）	後援
6/29～30	全国児童養護問題研究会第51回大阪大会 全国児童養護問題研究会	▽大阪府立男女共同参画・青少年センター（大阪市）	後援
7月～2026/3	第60期電話相談ボランティア養成講座 関西いのちの電話	▽大阪城南キリスト教会	後援
7/9～10	第73回近畿児童自立支援施設野球大会 兵庫県、近畿児童自立支援施設協議会	▽兵庫県三木総合防災公園野球場（三木市）ほか	後援
8/5～9	第41回土と水と緑の学校 アジア協会アジア友の会、関西教育旅行株式会社、和歌山県新宮市、新宮市教育委員会	▽和歌山県新宮市高田地区一帯など	後援
8/9～10	第69回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ 福岡県、福岡県肢体不自由児協会	▽福岡県立少年自然の家「玄海の家」（福岡県宗像市）	共催助成
9/1	第61回チャティー大茶会 茶道裏千家淡交会北九州支部	▽小倉井筒屋・パステルホール（福岡県北九州市）	後援
9/23	第5回「茶の湯文化にふれる市民講座」 表千家同門会大阪支部	▽朝日生命ホール（大阪市）	後援

日程	催事	
	主催者 ▽会場	
10/12～14	第42回スポーツフェスタ2024 大阪 大阪知的障がい者スポーツ協会 ▽ヤンマースタジアム長居（大阪市）ほか	後援
10/14	第29回大阪YMCA インターナショナル・チャリティーラン2024 大阪YMCA、日本YMCA 同盟、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区・阪和部・中西部 ▽花博記念公園鶴見緑地 特設コース（大阪市）	後援
10/20	ファインエリアフェスティバル2024 ファインエリアフェスティバル実行委員会 ▽大阪府立障がい者交流促進センター（大阪府堺市）ほか	後援
10/22	第74回施設従事者激励会 大阪民間社会福祉事業従事者共済会 ▽アートホテル大阪ベイタワー（大阪市）	後援
10/27	第52回全大阪ろうあ者文化祭 大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会 ▽大阪市立長居障がい者スポーツセンター	後援
11/3、 11/23～24	のびのびキャンプ 関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ、大阪府青少年活動財団（ユースサービス大阪） ▽吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）	後援
11/10～ 12/10	第72回「手足の不自由な子どもを育てる運動」 福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡県庁（福岡市）ほか	後援
11/16	第58回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会 ▽八尾市山城町1丁目公園（大阪府）	後援
11/23	2024年度医療社会事業従事者講習会 大阪医療ソーシャルワーカー協会 ▽大阪市社会福祉研修・情報センター（大阪市）	後援
11/28	第22回大阪救護施設合同文化事業 大阪救護施設合同文化事業運営委員会 ▽シティプラザ大阪（大阪市）	後援
11/28	令和6年度大阪府社会福祉大会 大阪府社会福祉協議会 ▽大阪国際交流センター・大ホール（大阪市）	後援
12/4～6	第1回「素のままが、ええやん！♪」 素のままが、ええやん！♪実行委員会、豊中市、豊中市障害者啓発活動委員会 ▽豊中市立文化芸術センター（大阪府）	後援
12/6～13	第44回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展 大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会 ▽大阪市教育会館（大阪市）	後援
12/8	福岡県肢体不自由児協会創立70周年記念の会 福岡県肢体不自由児協会 ▽福岡市市民福祉プラザホール（福岡県）	後援 助成
12/22	認知症講演会 大阪認知症研究会 ▽千里ライフサイエンスセンター・ライフホール（大阪府豊中市）	後援
2025/2/14 ～15	第29回全国地域福祉施設研修会 大阪市地域福祉施設協議会、日本地域福祉施設協議会 ▽大阪キリスト教短期大学（大阪市）	後援
2/17～21	第43回「肢体不自由児・者の美術展」（福岡地区） 福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡県庁（福岡市）ほか	後援
3/8	令和6年度 合同求人説明会「“福祉のお仕事” 就職フェア in OSAKA～ふくしに会おう・つながるマルシェ～」 大阪府 ▽OMM（大阪市）	後援
3/30	市民公開講座「もの忘れ診療の新時代～今日からはじめる認知症予防～」 認知症の人と家族の会茨城県支部、エーザイ、バイオジェン・ジャパン ▽つくば国際会議場（茨城県つくば市）	後援

## 収支／寄付報告

2024 年度 事業活動計算書より金額を抜粋  
(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

単位：円

サービス活動収益	244,672,227	サービス活動費用	471,983,192
事業収益		事業費用	
高齢者福祉事業	155,455	高齢者福祉事業	24,990,580
児童福祉事業	1,000,000	児童福祉事業	150,490,142
障害者福祉事業	15,455	障害者福祉事業	35,040,278
医療と公衆衛生事業	0	医療と公衆衛生事業	1,396,574
福祉啓発推進事業	0	福祉啓発推進事業	697,972
朝日ガイド事業	929,928	朝日ガイド事業	460,819
チャリティー事業	52,982,279	チャリティー事業	32,477,872
雑収益	199,210		
経常経費寄附金	189,389,900		
		人件費	159,053,078
		事務費	67,240,575
		減価償却費	95,056
		徴収不能額	40,246
サービス活動外収益	1,678,098	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	1,678,098		
経常増減差額	△ 225,632,867		

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

## 中期計画 2025 ～新しい福祉のつながりをめざして～

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

### はじめに

「新型コロナウイルス」の感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させました。社会情勢はもちろん社会福祉の領域における変化も、以前よりもスピードが増しています。

その中で、私たち社会福祉法人がめざすべきもの、達成すべき事業目標も、いま、大きな変革の時期を迎えております。地域を育み、福祉を支える人を育むことが、引き続き時代の要請となっていると考えます。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みを継続しながら、事業団の運営を常に見直し、「だれもが安心して暮らせる社会」の実現をめざし、事業を展開することを心がけてまいりました。

事業展開においては、「コロナ禍にあっても、工夫を施して実施できる事業は可能な限り実現させる」という方針のもと、オンラインシステムなどを積極的に活用し、これまでは集客を前提としたチャリティー事業であっても、事業にかかわるすべての人たちの安全・安心を確保したうえで実施できるような仕組みを整えてきました。

このような情勢の中、このたび、従前の「中期計画 2020」の改定を行うことにしました。

2028年には事業団設立から100年を迎えます。めざすべき理念はそのままにしながらも、社会情勢に合わせた形にリニューアルすべく、新たな中期計画づくりに着手しました。

この間、職員全員が参加するミーティングを招集して意見交換などを重ね、今回、おおむね3年先までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

この中期計画 2025では、今まで大切にしてきた私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を土台とし、これから先の時代に求められる福祉に対応すべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にして、寄付者の皆さまの思いをつなぎ、新しいソーシャルアクションから社会を変えていく姿勢を明確にしました。

昨今の福祉を取り巻く環境の変化、特に従来分野、対象ごとに実施する支援（縦割り）の福祉ではなく、複数の分野、世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みに力を入れ、今まで育んできた事業団の事業推進のノウハウを基に積極的に取り組んでまいります。

財務面では、積立資産の用途について、事業推進の理念にそって引き続き明確にしています。

また、今回の改定では、事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがますます高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。新しい働き方、寄付、広報などに関しても新しいアイデアを基に積極的に推進します。

## 1. 事業団の社会的使命

### ① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞社の関連団体として、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざします。

このミッションステートメントには、複数の領域にかかわるような新しい福祉問題に向き合って、事業団にしかできない形での事業を積極的に進め、多くの方々の共感を得たいという思いが込められています。引き続き「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にします。そして、ヤングケアラー等の支援や発達障がいへの対応など、困難な状況にいる人にエンパワメントを促すことのできる施策や、必要な人に必要な支援が届くよう、人や社会に働きかけていく熱意を大切にしたいと思えます。

#### 〈ミッションステートメント〉

先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて  
未来を見すえ、地域と人を育み、支援の  
輪をつなぎ、お互いに支え合いたれもが  
安心して暮らせる社会をつくる

地域を育み支援  
人を育み支援  
支援の輪づくり

(チャリティー事業・収益事業)

支え合う  
安心社会の実現

### ② 職員の活動モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員の活動モットーをかかげます。実施する事業が生み出すその先の「つながり」「展開」を考え、また事業における事業団の「独自性」はどこにあるのかを考えながら、常に仕事を刷新する姿勢で取り組みます。また支援者・寄付者の皆様の視点を尊重し、立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、事業を進めます。

#### 職員の活動モットー

- ・ 支援者・寄付者の思いをつなぐ
- ・ 時代に必要とされる仕事をめざす
- ・ 社会的な視点を意識する
- ・ 新たな課題の発見につとめる
- ・ スピード感をもって仕事にあたる
- ・ 効果、効率を追求する
- ・ 質の高い仕事をめざす
- ・ 常に仕事を刷新する
- ・ 持続可能な形をめざす
- ・ 当事者の声を大切にする

## 2. 事業展開

### ① 分野越境の視点

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。最新の福祉情勢を見つめながら、これまでの視点・役割にとらわれず、先進的な視点を持ち常に事業を見直し進めていく、「分野越境」の視点を大切にします。

## ②全世代型福祉

複数の世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みもその一つです。各事業は当事者、そして支援者の思いを大切に、また、常に見直し、新しいニーズに見合った形で事業を絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

## ③独自性を意識

事業団にしかできない事業は何なのかを常に意識しながら、「企画集団」として独自の視点を持ち、旧来の児童、高齢者、障がい者といった福祉領域のサービスのみにとらわれることなく、時には分野を横断する概念を取り込み、発展的に展開します。

また企画立案の際には、事業の最終目標、終着点を必ず想定することで、継続ありきではなく常に事業を見直していくことを心がけます。そして、社会の変化の中で、事業目的を達成したと判断した場合には、事業の刷新を行います。

## 3. 拠点と要員

### ①全国規模で対応

事業団は22年度より東京事務所・大阪事務所の2拠点体制となりました。「全職員が一丸となって全国を対象に事業を運営していく」を念頭に、限られた人数の職員が力を発揮し、連携を進めていくことをめざし、オンラインシステムなども活用し、継続的に事務所にとられない事業の推進ができる体制づくりを進めます。今後も職員の交流を進め、地域性の高い事業をそれぞれの事業所で行う場面でも、両事務所が連携し進めていけるような環境を整えていきます。

大きな災害時のBCP対応なども見据えて、人と事業を分散させつつも、効率的な事業展開ができるよう引き続きつとめます。

### ②地域にも積極的に貢献

事業団が所在する東京都中央区や大阪市の地域で実施している地域福祉事業を大切に継続していきます。また地域の様々な団体などとの連携を継続しながら、今後考えられる新しいつながりの形などについても引き続き可能性を探っていきます。

### ③適正な人数配置

全国展開を継続する一方、それぞれの地域事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、両事業所に必要な人員を配置していきます。地域別事業費（費消事務所ベース）の割合なども参考にしながら、活動に必要な人員配置を行い、財務的に安定した運営をめざしていきます。

### ④新しい働き方

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。注力すべき事業に関する職員研修などを充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベーションしていきます。

また、コロナ禍で感染対策の一環として運用を開始した「在宅勤務」については、そのメリットを生かし、それぞれの職員が特性を生かし、多様な働き方ができるような方策を検討します。

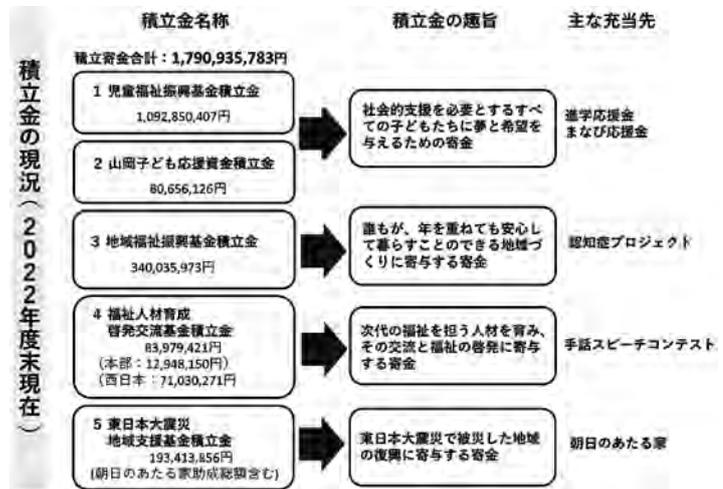
そのため必要なインフラ等の整備は今後も進めてまいります。

また育児や介護時の就業を支えるための方策や、現在60歳の定年制度についても併せて検討し環境整備に取り組みます。

## 4. 財務戦略・ガバナンス強化

### ①「次世代型積立金」

近年の福祉は、多分野・多領域にまたがる問題が複雑化しています。児童、障がい者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況があります。これに対応するために積立金を「児童福祉振興基金」「山岡子ども応援資金」「地域福祉振興基金」「福祉人材育成啓発交流基金」「東日本大震災地域支援基金」の5つに分けて設定しました。今後も、それぞれに該当する事業について各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。



### ②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4～5億円程度で推移しています。今後、寄付金収入やチャリティー事業の収入が落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業を新たに開拓する必要があります。また、安全性に留意したうえで積立資産の運用を検討します。

寄付については、より多くの皆さまに共感をいただける事業を引き続き実施しながら、新規の寄付者を獲得できるように展開をしていきます。近年、スタートさせたクラウドファンディングや遺贈に関する取り組みを更に充実していきます。また、企業協賛や事業ごとの企業とのタイアップなどについても研究を進めていき、今までとは違った新しい支援をいただけるよう取り組んでいきます。

公益事業改革も引きつづき継続します。特にチャリティー事業については、収益の見通しなどを常に検証し、定期的に事業実施の継続について検討を行っていきます。実施するチャリティーが、その実施を通じ、新しい効果やつながり、新しい支援者を増やすことができているかどうか大切な判断基準としていきます。

### ③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底の要請はますます強まっています。事業の収支については、事業ごとのフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、引き続き監査法人等による会計監査も実施します。加えて、職員が事業企画に注力でき、かつ効率的な経理処理を行うため、ペー

パレス化などへの取り組みも進めていきます。

#### ④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、前向きに議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また、現在だけでなく、将来考えられる事業経費や考えられるリスクなどについても、つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

## 5. 広報展開

### SNS（ソーシャルネットワーク）も積極的に活用

事業団では、SNS上のPR活動も不可欠と考え、法人独自のホームページの運営に加え、インスタグラム、X、フェイスブックなどを活用しています。事業にかかわった方の紹介や思いの発信を行うことで、事業の趣旨などについて幅広くご理解をいただくと考えています。

SNSの特性である、「双方向のやりとり」についても、反応やつながりをダイレクトに感じ、つないでいくことができるものだと理解しています。運営におけるルールなども必要に応じて見直ししながら、今後も積極的に活用していきます。

また、事業団の支援者の多くが購読する朝日新聞を使った広報・PRについても、効果的な新聞メディアの活用法などを研究し、多くの方々のご支援につながるような定期的な情報発信を検討したいと考えております。

### おわりに

この中期計画は、現在の社会情勢の中で、事業団が目指すべきもの、大切にしたいものを職員全員で考えた内容になっています。この度の計画改定で、引き続き皆さまから求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね3年先までの方向性ということでもとめました。最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、その期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きたいと思っております。すべての職員の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに具現化され、新しい福祉のつながりをつくっていけるよう、さらに努力してまいります。

# 名 簿

## 理事・監事・評議員名簿

(2025年3月31日現在、理事6人 監事2人 評議員7人)

理事長	藤井 龍也	朝日新聞社顧問
業務執行理事	是永 一好	朝日新聞厚生文化事業団理事
理 事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	三国 治	元社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
監 事	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
同	横田 崇	横田税理士事務所所長
評議員	石渡 和実	東洋英和女学院大学名誉教授
同	大谷 泰夫	公立大学法人神奈川県立保健福祉大学理事長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	杉村 全陽	前社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	高橋 博則	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社会長
同	山田 優	朝日新聞社広報・ブランド推進部部長代理

## 職員名簿 (2025年3月31日現在)

### 【本部】（東京）

事務局長	笠原章宏
事業第一部長	野崎貴士
事業第二部長	宮前賢
管理担当部長	森浦浩
広報担当部長	河田有子
	落合すが子
	勝見文子
	古屋厚子
	中村宣人
	古海慶太
	松岡百合

### 【大阪事務所】

西日本事業部長	
兼大阪事務所長	中谷和司
	小倉玲子
	藤本祐子
	森田英枝

■ 本部

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 朝日新聞東京本社内  
電話 03-5540-7446 ファクス 03-5565-1643

■ 大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18  
電話 06-6201-8008 ファクス 06-6231-3004



## 2024 朝日の社会福祉 令和6年度事業報告

- ホームページ : <https://www.asahi-welfare.or.jp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>
- X : [https://x.com/asahi\\_welfare](https://x.com/asahi_welfare)
- Instagram : <https://www.instagram.com/asahiwelfare/>

